

〔嬉遊笑覽<sup>十上</sup>〕落葉色々もやうに付るを吹よせといふ、後京極殿、木のもとにつもる木葉をかきつめて露あたま、むる秋の盃といふ歌より、吹よせといふ盃ありとか、

〔白石遺文拾遺<sup>下</sup>〕題七賢盃。

七賢盃、藏在于洛東山銀閣、一套七盃、朱漆、金書竹林七子姓字、少壯者盃淺、老大者盃深、蓋是東山大將軍之物、其字所自銘也、去歲吾西上之日、過寺得一見之、以爲奇絶、南禪長老晃公、因爲余使工摸作、器成見贈、形制字樣一如其舊、長老持戒而作酒器、居士不飲而愛酒器、二人者所爲如此、可以發一笑也、正徳元年五月十一日、

〔日本國風<sup>五</sup>〕酒坏

東山銀閣寺に將軍義政公製したまひし、朱漆の塗盃有て、今寶物となる、盃七枚を朱漆に塗て、入子に重ね、大はさしわたし曲尺四寸二分、小は三寸、大の高さいと底ともに一寸六分にて、大より次第に王戎、阮咸、劉伶、向秀、山濤、阮籍、嵇康と、竹林七賢の名を、眞字に金粉にて書て、金のいつかけ有<sup>○</sup>下略

〔近世奇跡考<sup>四</sup>〕元祖團十郎傳并肖像

元祖團十郎似顔面形盃。

木ぼりにて大き圖のごとし、<sup>○</sup>圖うらの方にて酒をのむやうにしたるものなり、面は白くぬりて、朱のくまどりあり、眼中は金箔玉眼入、うらの方は黒ぬりなり、

これはやんごとなき方の、をさめ玉ふものにして、友人蕙齋主人たづさへ來て見せしむ、面打のつくりたるものと見えて、いと殊勝の古物也、

〔攝津名所圖會<sup>二</sup>〕

東生郡

浮瀬といふ遊筵の看樓は、<sup>○</sup>中

略

七人猩猩々といふ盃は、常の蓋にして、朱塗に

七人猩猩々の蒔繪あり、大器にして六升五合盛れるとぞ、むかしより二人計、これにて飲しけると